


在外研究員研究報告書

2019年8月5日 受付

所 属	グローバル・コミュニケーション学部		氏 名	郭 雲輝	
職 名	教授				
研究課題名	中国語の主観量を表す副詞に関する記述的研究				
研究期間	2018年4月1日～2019年3月31日				
滞在期間 ・滞在地 研究調査先	滞在期間	滞 在 地	研究・調査先		
	2018.4.1～2019.3.31	中国・北京	北京大学・中国文学系		
研究費	3,066,000 円		研究成果の概要	別記	
発 表	題 目 名	発表学術誌名Vol. No.		発行年月日	
	「陳述副詞と主観量との関係をめぐって——“竟”“竟然”“居然”と「なんと」の比較を中心に」 (彭広陸氏と共著)	『副詞の研究』（論文集・白帝社） (投稿中)		2019年	
	著 書 名	発 行 所 名		発行年月日	
	演 題	講 演 学 会 名		講演年月日	

研究成果の概要

研究期間：2018年4月1日～2019年3月31日

研究課題名：中国語の主観量を表す副詞に関する記述的研究

研究成果：研究期間中主として次の二つの分野で成果を得ることができた。

- ① 中国語の主観量を表す副詞に関する研究
- ② 外国人向けの中国語教材の文法項目に関する研究

研究成果の詳細は下記の通りである。

① 中国語の主観量を表す副詞に関する研究

近年、言語の主観性に関する研究に注目が集まっている。主観量の研究もその例外ではない。「量」は人間が世界を認識するためのカテゴリーの一つである。言い換えれば、世界に存在する物事がいずれも量的特徴を持っているということになる。言語化された量の表現は「客観量」と「主観量」に分けることができる。「客観量」が客観的に表現される量のことであるのに対して、「主観量」は、客観量が表現されると同時に、それに対する話し手の主観的な評価をも表現されるものである。主観量は更に、「大数量」と「小数量」に二分することができる。次がその例である。

- (1) 他昨天吃了3个苹果。(彼はきのうリンゴを三つ食べた。) <客観量>
- (2) 他昨天竟然吃了3个苹果。(彼はきのうリンゴを三つも食べた。) <大数量>
- (3) 他昨天只吃了3个苹果。(彼はきのうリンゴを三つしか食べなかった。) <小数量>

つまり、同じ言語事実に対して、話し手による前提＝設定値のあり無しで、客観量の表現を取るか、主観量の表現を取るかが決まってくる。前提がなければ客観量の表現を、前提があれば主観量の表現を取るようになるのである。更に、話し手の設定した主観的な設定値との関係で、具体的に言えば、設定値に到達したり接近したりそれを超えたりした場合は、「大数量」の表現を取るようになるし、設定値に達していない場合は、「小数量」の表現を取るになっているのである。

一方、中国語では、「主観量」を表すのに、語彙的な手段も文法的な手段も利用されている。前

者の場合は、動詞・形容詞とともに、副詞も一翼を担っている。「主観量」を表す副詞は、次のように、単純語的な性格をもっているものと複合語的な性格をもっているものが共存する一方、もっぱら「大数量」を表すものと、もっぱら「小数量」を表すものに分かれている。

- (4) “都” “足” “足足” “整” “整整” “一口气” “一气儿” “一连” “一举” “一晃” “已经” “至少” “少说” “将近” “多则” “动辄” “连续” “连” <大数量>
- (5) “就” “才” “刚” “仅” “仅仅” “刚刚” “才刚” “也才” “也就” “最多” “顶多” “充其量” “一半天” <小数量>

しかし、わずかながら、“竟” “竟然” “居然” のような、「大数量」も「小数量」も表現できる副詞もあるのである。日本語にも似た現象が観察されるが、「なんと」がいわゆる両用の副詞に当たるものである。となれば、中国語における“竟” “竟然” “居然” と日本語における「なんと」との間にどのような共通点と相違点があるのか、調べてみるが必要になってくる。

そこで、2018年8月19日、中国の蘇州大学で行われた第10回中日対照言語学シンポジウムにおいて、「陳述副詞と主観量との関係をめぐって——“竟” “竟然” “居然” と「なんと」の比較を中心に」というテーマで彭広陸氏と共同発表した。論文の概要は次の通りである。

中国語については、北京大学の中国言語学研究センターの開発による「CCLコーパス」からランダムに“竟” “竟然” “居然” という三語の実例を500例ずつ抽出してみた。その分布が次のようになっていることが分かった。

	非主観量的用法	主観量的用法		合計
		大数量	小数量	
竟	437例(87.4%)	61例(12.2%)	2例(0.4%)	500例(100%)
竟然	470例(94%)	27例(5.4%)	3例(0.6%)	500例(100%)
居然	457例(91.4%)	37例(7.4%)	6例(1.2%)	500例(100%)

以下に挙げる例では、(6)～(8)が大数量の用法であり、(9)～(11)が小数量の用法である。(下線の引いてあるのは主観量のマーカーと思しきものである)

(6) 第一年销售额竟高达419万辆，创下了全美汽车制造业的最高纪录。

(7) 但是，颇具讽刺性的是，他的发现竟然被埋没了30多年，以至当时几乎无人知晓。

(8) 同是古旧书店，日本有2700家，弹丸之地的荷兰居然也有90家。

(9) 据经济观察家阎卡林的统计，海南省这一年共出让 2884 公顷的土地，而实际在建和竣工

的竟不到 20%，大量土地闲置，被用来囤积炒卖。

(10) 梁家辉：对，我们两个也没分谁甲谁乙，反正当时翻了半天剧本发现竟然就只有一句，其实也没有一句，就是一个词。

(11) 李劲从书包里面拿出考卷对妈妈说道：“数学没有考好，我居然只拿了 75 分。”

「なんと」については、日本国立国語研究所の開発した「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を通してその分布を調べてみた。

	非主観量的用法	主観量的用法		合計
		大数量	小数量	
なんと	406例(81.2%)	78例(15.6%)	16例(3.2%)	500例(100%)

例 (12) が大数量用法であるのに対して、(13) は小数量の用法である。

(12) 群馬県北部ではこの日一日でなんと新雪が 1 m も積まりました。

(13) 最近は、ハカリに乗るのが楽しくなってきた。なんと針は、四十六キロ。

上記の統計の結果から次のようなことが分かった。陳述副詞である“竟”“竟然”“居然”も「なんと」もいずれも「意外性」という中核的モデルな意味を表すものである。それらが数量詞と共起する場合は、主観量専用のマーカーと協働で「大数量」か「小数量」という主観量の意味を表すようになるのだが、主観量のマーカーが共起していない場合は、“竟”“竟然”“居然”と「なんと」などは「大数量」を表すことが多いということである。全体的に見ても、“竟”“竟然”“居然”と「なんと」は「大数量」を表す場合が圧倒的に多いのである。そして、“竟”“竟然”“居然”と「なんと」が「主観量」を表す場合は、「意外性」という意味をも同時に表すことになっているのである。更に、“竟”“竟然”“居然”と「なんと」などの構文的ポジションが特に決まっているわけではなく、数量詞との距離によってそのスコープも変わり、したがって、主観量に対する取り立ての度合いも変わると考えられる。“竟”“竟然”“居然”と「なんと」との差については、日本語のほうがやや主観量的用法が多いということが言えそうである。

② 外国人向けの中国語教材の文法項目に関する研究

北京大学で在外研究を行った期間中に北京大学中文系（中国言語文学部）袁毓林教授の「認知言語学」「構文分析」「結合価文法」などの授業を聴講しただけではなく、対外漢語教育学院の楊徳峰教授の「第二言語としての中国語文法教育研究」や王海峰教授の「中国語教育向けの中国語

研究」といった授業も聴講した。

楊徳峰教授の授業では、「文法体系における問題及びその解決策」「文法教材における文法体系」「中国語教育文法体系の構築に関する原則」「文法教育方法論」「言語学理論と中国語教育」「語用論と中国語教育」「レトリックとレトリック教育」「談話研究と教育」などのテーマが取り上げられた。いずれも示唆に富んだ授業であった。その中で特に、外国人に中国語を教える際の文法項目の提出順などについての興味深いお話を聞いた時は、2017年度に同僚と一緒に試用のライディングテキストを作成した時の光景を思い浮かべた。楊先生の講義内容を参考にして、日本人中国語学習者の特徴を考慮しながら、ライディングテキストの文法項目を考え直すつもりである。例えば、日本人の学習者にとってはあまり難しくなく、日本語に似ている項目は、あえて文法項目ではなく、単語レベルで解決できないかと考えている。更に、方向補語目的語がある場合は、最も理解しやすいものから教えるというふうに修正したいと思うようになった。

王海峰教授による「言語類型論から見た中国語音声の特徴と教育の難点」「中国語の音声教育について」「中国語音声学」などの講義も大変参考になるものであった。特に、一緒に授業を受けた院生といろいろと交流ができ、今後の中国語の音声教育に役立つ研究資料もたくさん紹介していただいた。

とにかく大変勉強になる在外研究の一年間であった。得られた成果を今後の研究につなげ、論文や教材などの形で発表する予定である。この貴重な機会を与えて下さった大学やG C学部の関係者の皆様に心から感謝している次第である。